

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

令和 8 年度事業計画書

令和 8 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日

がんに関する研究を奨励助成し、もってわが国の学術振興および人類の福祉に寄与することを目的と定めた定款に基づき、令和 8 年度事業計画を次のとおり定める。

1. 研究助成金の贈呈（昭和 4 4 年度創設）

がん研究の進歩、発展に貢献することが大きいと考えられる日本で行う優れた研究を対象とし、研究を行う研究者及びグループに対し、1 件につき研究助成金 200 万円を贈呈する。公募に応じた研究者及びグループから原則 40 件以内を選考する。

2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈（昭和 4 3 年度創設）

がんに関する研究において優れた業績を挙げた研究者に対し、高松宮妃癌研究基金学術賞（表彰楯及び副賞 500 万円）を贈呈する。日本人が日本で行った研究を対象とし、推薦を受けた候補者の中から「基礎」及び「臨床」の各研究領域から 1 件（合計 2 件を上限とする。）を選考する。但し、一方の領域に受賞適任者がいないときは、他方の領域から 2 件を選考する。学術賞受賞者には、令和 9 年 2 月に開催の学術賞・研究助成金等贈呈式において研究内容について一般の方にもわかりやすい講演をお願いする。

3. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催（昭和 4 5 年度創設）

- (1) がんに関する重点課題をテーマとして、世界各国から最先端の研究者を招聘し、国際シンポジウムを開催する。本年度のテーマは、「変異を超えて：がんの進化を導くエピゲノムの力」である。

会 期	:	令和 8 年 11 月 10 日(火)～12 日(木)
開 催 場 所	:	グランドプリンスホテル高輪（港区高輪 3-13-1）
組織委員長	:	近藤 豊 博士 (名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍生物学教授)
組 織 委 員	:	Bradley Bernstein 博士 (Dana-Farber Cancer Institute 米国) 油谷 浩幸 博士 (東京大学先端科学技術研究センター シニアリサーチフェロー) 石川 俊平 博士 (東京大学大学院医学系研究科 衛生学分野教授) 吉見 昭秀 博士 (国立がん研究センター研究所がん RNA 研究分野分野長)
事 務 局 長	:	新城 恵子 博士 (名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍 生物学講師)

招待演者 : 海外から 20 名及び国内から 10 名
討論者 : 約 200 名を予定

シンポジウム終了後、「Extended Abstracts for the International Symposium of the Princess Takamatsu Cancer Research Fund」を編集刊行する。

- (2) 本シンポジウムの特別セッションにおいて、中原記念講演を実施する。本講演は、当財団の国際シンポジウムをはじめ学術活動の基盤確立に尽力された故中原和郎博士（国立がんセンター初代研究所長、第 5 代総長）の功績を称え遺徳を偲ぶ趣旨で行うものであり、当年度の講演者は、Kristian Helin 博士（ロンドンがん研究所最高経営責任者兼所長）を予定している。講演者には、記念の楯と副賞 50 万円を贈呈する。

4. 国際講演会の開催（昭和 56 年度創設）

がん研究に関する講演会及び研究会開催の一つとして、顕著な業績を挙げた外国の著名な研究者を招聘し、国内 3 か所の研究機関で研究者を対象とした講演を行う。本年度は Dan A. Landau 博士（ワイル・コーネル大学医学部生理学・生物物理学教授）を招聘し、原則として国内 3 か所で講演会を開催する予定である。（時期、場所については講演者と調整中。）

5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成（平成 19 年度創設）

わが国のみならず世界のがん研究の振興、研究者の激励に多大の貢献を果された故高松宮妃殿下のご功績を広く世界に顕彰し、がんの研究に関する国際交流とその助成として、米国癌学会（AACR）との共催で記念講演会を開催する。

講演会は、毎年春の AACR 年会において行われ、講演者には記念の楯と副賞 1 万ドルを贈呈する。

本年度は、AACR 選考委員会において選考された講演者により、4 月 17 日から 22 日、カリフォルニア州サンディエゴで開催される AACR 年会 2026 において実施される。

当財団は、賞金を含む運営資金として 300 万円を拠出するとともに、例年同年会に当財団代表者を派遣することとし、本年度も昨年度に引き続き学術委員会委員の村上善則先生の出席を予定している。

なお本事業は、平成 19 年（2007 年）から実施しており、本年度は平成 29 年（2017 年）に AACR と再契約を締結した 10 年間の最終年となる（平成 28 年 3 月 11 日理事会決議）。

6. 国際シンポジウム開催の助成（平成 26 年度創設）

がんに関する講演会及び研究会開催の助成として、平成 26 年度以降、日本国内においてがん研究に関する学会等の諸団体が主催し、がん研究の進展に資する国際シンポジウムに対して助成を行う。

＜助成先＞日本癌学会が主催する学術総会における JCA-AACR ジョイントシンポジアの共催

日本癌学会が、令和 8 年 9 月に京都で開催する学術総会における AACR との共催国際

シンポジウムに対し、同シンポジウム開催に必要な費用の一部 500 万円を助成し、後援する。

日本癌学会は、明治 41 年設立の癌研究会を母体として、昭和 16 年に「がん研究の発達を図る」ために設立された学会であり、その専門分野は基礎研究から臨床研究まで幅広く、約 15,000 人の会員を擁するがん分野における日本最古最大の学会である。

7. 機関誌「CANCER」の発刊

この法人の目的を達成するために必要な事業として、機関誌「CANCER」の発刊などの活動を行う。

以上